

令和6年度指定管理者評価シート

1 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市年輪荘
(2)施設概要	①所在地 さいたま市緑区大字中尾1404番地 ②施設の設置目的 老人福祉法に規定する基本理念に基づき、養護老人ホームの利用者の健康で安らかな生活の向上に寄与し、福祉の増進を図るための施設。 ③施設の概要 ・開設年月日 昭和42年6月(平成4年5月全面改築、平成21年3月改修工事、令和3年11月～令和5年3月中規模修繕工事) * 平成4年5月～ デイサービスセンター事業開始 * 令和5年4月～ デイサービスセンター事業廃止 ・延床面積 2,171.52㎡ ・構造 鉄筋コンクリート造 2階建 ④事業内容 ・養護老人ホームに関する事業(定員50人)
(3)指定管理者	社会福祉法人 埼玉県共済会
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和4年度 20,138千円 令和5年度 17,000千円 令和6年度 18,760千円

(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・養護老人ホーム - 平均入所者数 44.0人(前年度 44.5人) - 稼働率 87.9%(前年度 89.1%) - 延べ短期入所利用者数 1,061人(前年度1,526人) ◇業務実施状況 基本理念・基本方針に基づき入所者の立場に立った支援や目標である生きがい支援を取り入れる為に、入所者の良いところや可能性を導き出すためのアセスメントを実施し、入所者の個別処遇計画に結び付け、自立支援に努めました。感染症対策につきましては、予防対策や発生時の対応等、随時状況に合わせた内容へと見直しを図りましたが年4回、陽性者の発症が複数名発生し、うち1回はクラスターとなりましたが、いずれも重症化することなく収束することができました。入所措置につきましては、経済的困窮者や精神疾患患者、虐待ケース等の重複した様々な問題を抱えた高齢者の受け入れ体制を整え、見守り支援をおこないながらセーフティーネットとしての機能を果たし、入所者が自立した生活を送れるよう自立支援及び介護予防の維持に努めました。 ②維持管理業務の状況 施設管理業務計画書を基にスケジュール調整し建築設備、昇降機、自動ドア、消防設備、機械設備、給排水設備等の法定、定期点検の実施を行いました。また、居室や厨房などへの消毒や館内の床清掃を定期的の実施し、安全な生活が維持できるよう努めました。												
	③その他の業務(自主事業等) <table border="0"> <tr> <td>4月 健康診断、花祭り、親睦会総会</td> <td>5月 誕生会</td> </tr> <tr> <td>6月 防災訓練、日帰り遠足</td> <td>7月 七夕、誕生会</td> </tr> <tr> <td>8月 夏祭り</td> <td>9月 敬老会、創作作品展、誕生会</td> </tr> <tr> <td>10月 健康診断、防災訓練</td> <td>11月 誕生会、BCP防災訓練</td> </tr> <tr> <td>12月 人権相談会、クリスマス会</td> <td>1月 誕生会、新年会</td> </tr> <tr> <td>2月 節分</td> <td>3月 花見、誕生会</td> </tr> </table> ・各種教室(陶芸、俳句) ・クラブ活動(園芸、習字、カラオケ) ・ボランティア(大正琴、折り紙、チャレンジスクール) ・未来くるワーク体験、介護体験等事業受け入れ	4月 健康診断、花祭り、親睦会総会	5月 誕生会	6月 防災訓練、日帰り遠足	7月 七夕、誕生会	8月 夏祭り	9月 敬老会、創作作品展、誕生会	10月 健康診断、防災訓練	11月 誕生会、BCP防災訓練	12月 人権相談会、クリスマス会	1月 誕生会、新年会	2月 節分	3月 花見、誕生会
4月 健康診断、花祭り、親睦会総会	5月 誕生会												
6月 防災訓練、日帰り遠足	7月 七夕、誕生会												
8月 夏祭り	9月 敬老会、創作作品展、誕生会												
10月 健康診断、防災訓練	11月 誕生会、BCP防災訓練												
12月 人権相談会、クリスマス会	1月 誕生会、新年会												
2月 節分	3月 花見、誕生会												
(6)収支状況	①収入 ・措置費収入123,459千円(前年度122,952千円) ・指定管理料 18,760千円(前年度 17,000千円) ・その他収入 1,367千円(前年度 6,234千円) ②支出 ・人件費 92,304千円(前年度 85,900千円) ・事業費 32,536千円(前年度 32,812千円) ・事務費 17,352千円(前年度 17,098千円) ・その他支出 1,694千円(前年度 8,204千円)												

(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	入所者アンケート調査(年1回5月)、入所者主体の親睦会(年6回偶数月)、各寮ごとの懇話会(年2回6月、11月)、意見箱の設置などから意見や要望等を確認し、検討及び協議した結果を速やかに館内掲示と口頭説明を行い対応しました。 食事に関しては、リクエストに対応した給食(ロコモコ丼やラーメン+チャーハン等)を提供しました。 買い物に行くのが難しい方等への対応として、送迎車で普段行けない店への買い物ツアーを実施したり、宅配サービスの利用、移動販売車に毎月来ていただくなど食料品や日用品の購入に不自由がないよう、多くの機会を設けました。また、ストレス解消の場として多目的室を開放し、卓球やバトミントン等ができる環境を整え、心身の健康維持に努めました。 地域からの要望に関しては、駐車場を開放し地域の皆さんと合同で行う朝のラジオ体操を継続して実施しました。地域主催は春～秋までの実施で冬場は休止となるため、利用者から自主的に冬場もラジオ体操を行いたいという要望から多目的室を解放し、利用者主体でラジオ体操を実施しました。
(8)その他	さいたま人権擁護委員協議会からの依頼を受け、施設で課題としていた『噂話』をテーマを実施し、人権啓発も兼ねた交流会を実施しました。 感染予防で休止していた隔月の誕生会における隣接保育園の園児との交流を再開し、世代間交流の機会を設けました。 日帰り遠足も再開し、大崎公園で動物とふれあえる場を設けました。

2 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
施設の管理運営体制について	組織としての管理運営体制は、業務体制である全体職員会議(毎月)をはじめ、現場職員会議、個別処遇検討会議、給食会議、事業計画(行事)会議、事故・ヒヤリ検討会議があり、危機管理体制としては安全対策委員会(感染症対策)、身体拘束・虐待防止委員会、防災対策委員会、セキュリティ対策委員会、苦情処理委員会を設置し、職員一人ひとりが責任と役割を持ち情報の共有化を図るとともに、課題の検討に努めました。 また、職員配置基準を上回る人数を配置し、入所者が安心安全な生活できる環境を継続して対応しました。その他、各福祉事務所からの入所又は緊急ショートステイの依頼に対応できるよう柔軟な環境体制を整え受け入れを行いました。
入所者への生活支援について	入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症等が進むなか、自立支援を強化するため、年1回、個別の日常生活動作評価を行い状況の把握に努めました。また、本人の強みを引き出すために、アセスメントにより個々の状況把握に努め、本人の意向も取り入れた個別処遇計画を作成し対応しました。更に、介護や専門的なリハビリを希望される方には介護保険による各種サービスの情報提供とサービスの導入を行い、施設での日常生活が維持できるよう努めました。 その他、入所者の自主的な組織である親睦会活動に対し、各種の行事を共催事業として実施したり、食堂当番などの園内活動に積極的に参加していただいた入所者に対し、ボランティア奨励金を支給し役割と自信が持てるよう自立支援に努めました。

施設の安全管理について	建物及び設備に関しては、施設管理業務計画に基づいた定期的な保守点検により、早期発見・早期修繕に繋げ、計画的な維持管理及び安全管理に努めました。防犯対策では日中は複数回の館内及び居室の巡視と防犯カメラによる不審者等の確認点検、夜間は巡視員による館内及び敷地内の巡回にて安全確認に努めました。 感染症対策においては安全対策委員会を随時開催し、知識や情報の習得と感染の未然防止に努めました。また、食中毒・感染症予防マニュアルを適宜見直し、食中毒等が発生した場合の発生状況の把握や拡大の防止、医療処置等の対応について職員間で共有に努めました。
緊急時の対応などの危機管理体制について	緊急時マニュアル及び事故防止マニュアルや、事故・ヒヤリ検討会議にて情報を共有し日頃から事故防止に努めました。入所者の事故及びヒヤリハットでは、軽度の事故から報告することにより、職員の意識づけや防止に努めました。また事故状況の確認が取れない事故も多く、分析できない場合は可能な限り共用部に設置された防犯カメラにて再度、状況の確認と分析を行いながらその要因と対策を立て実施しました。 その他、緊急時の対応や判断について、誰もがどの場面でも対応できるよう振り返りの勉強会を実施しました。 防災訓練では昼夜の火災を想定した訓練を2回実施し、うち1回は起震車体験も行いました。また、昼間の地震を想定した訓練も実施し、いざというときのために対応できるよう訓練を行い、課題の追及を行いながら全職員で取り組みました。
職員の教育・研修などの資質向上について	新人職員に対しては新人マニュアルの活用を行い、個人のスキルに応じた計画を立て、振り返り面談を実施しながら丁寧に指導しました。また、専門的スキルの向上を図るため、国家資格の取得に対し資格取得の支援(実習等)と費用の補助を行いました。 人事管理制度により各人が目標を立てることでスキルアップを促し、定期的な上司との面談によりフォローアップを行い、モチベーションや資質の向上に取り組んでいます。これらを通して組織力を高め、入所者への一層のサービス向上に繋がるよう指導を行いました。並行して研修意向調査のもと、個別職員研修計画を作成し、キャリアに応じた研修への計画的な参加機会を設け、職員のスキルアップ向上に努めました。受講後には「研修受講振り返りシート」の活用にて自己評価を行い、職員間での情報の共有化を図りました。

3 評価

(1) 指定管理者による評価

(入所者の処遇・確保)

処遇につきましては、入所する時点から見守りなどの支援が必要な方が増えており、且つ入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症などで、要介護度の判定を受けている方々が定員の約4割となっていることから、引き続き夜勤の体制を継続し施設で少しでも長く生活していけるよう、外部の介護保険サービスの活用をしながら、サテライト事業との併用で日常生活全般にわたる支援や援助に努めました。また、入所者全員を対象とした個別の処遇計画を作成し、リハビリやレクリエーションなどを実施し認知症予防や寝たきりの状態にならないよう最大限の維持向上に努めました。

入所者確保につきましては、養護老人ホームを知っていただくためにチラシを作成し、各福祉事務所へ養護老人ホームとしての機能や役割を周知し、訪問活動を行い入所者確保に努めましたが、数度の新型コロナウイルス感染者の発生により受け入れが出来ず、入所率は前年度より若干ですが減となり、目標である90%を達成することが出来ませんでした。引き続き各福祉事務所及び地域定着支援センターや精神科病院等へ訪問活動等を行い、連携と情報収集を図りながら本来のセーフティネットとしての役割を意識し、入所者確保に努めてまいります。

(業務改善・経費削減)

業務改善につきましては、夜間の宿直体制について規則改正により宿直とその前後の勤務時間の変更を行ったことで、夕食後や朝食前後の業務にも柔軟な対応が可能となり、少ない人員の中で現状の入所者のレベルに合わせた支援を行える体制を整えることができました。

経費削減につきましては、光熱水費対策として夏季・冬季それぞれの節電計画を作成し、空調は熱中症警戒領域となった場合に作動するなど、職員、入所者ともに説明と周知徹底を行った結果、昨年度より経費の削減が出来ました。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価 (B) ※A～D

1 項目別の評価

(1) 「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価

・入所する時点から見守りなどの支援が必要で、且つ入所者の高齢化に伴う身体機能の低下や認知症などで、要介護度の判定を受けている方々に対し、外部の介護保険サービスを活用しながら、日常生活全般にわたる支援や援助に努めていること、また、入所者全員を対象とした個別の処遇計画を作成し、リハビリやレクリエーションなどを実施し認知症予防や寝たきりの状態にならないよう最大限の維持向上に努めていることを評価した。

(2) 「経費の削減」に対する評価

・節電計画を作成し、節電対策に努め、経費削減につながった点を評価した。

(3) 「適正な管理運営の確保」に対する評価

・入所施設であることから、複数回の館内巡視や防犯カメラによる不審者等の確認点検、夜間の巡視員による巡回など、入所者が安心、安全に生活できるように努めていることを評価した。

2 総合評価

事業計画に沿って、適正に施設運営が行われている。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。